

科 目 名	保育基礎	単 位 数	2 単位	学科・学年	生活総合 科 2 年																																								
使用教科書	子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う (教育図書株式会社)			副教材等																																									
学 習 目 標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う (3) 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かる協働的に取り組む態度を養う。																																												
学 習 評 価	○ 次の三つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。 <table><tr><td>①知識・技能</td><td colspan="4">子どもの発達や育児活動において必要な知識を吸収し、実生活において問題を解決できる力が得られているかを判断する。</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td colspan="4">実技やワークシート、定期試験の中から、望ましい育児のとらえ方をしているかどうかを判断する。日々の育児活動の中で直面する様々な問題点を、親としての確に解決できるかを判断する。</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td colspan="4">授業に積極的に取り組み、発表・課題提出などが積極的にできるかどうか判断する。</td></tr></table> <table><tr><td>評価方法\観点</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td></td></tr><tr><td>学習状況観察</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>自己評価の実施</td></tr><tr><td>課題レポート</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>課題ごとに提出</td></tr><tr><td>ノート提出</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td>学期に1回提出</td></tr><tr><td>ペーパーテスト</td><td>◎</td><td>◎</td><td>—</td><td>中間・期末試験</td></tr></table> ※表中の◎は観点の中でより重視するところです。 ○ 学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。					①知識・技能	子どもの発達や育児活動において必要な知識を吸収し、実生活において問題を解決できる力が得られているかを判断する。				②思考・判断・表現	実技やワークシート、定期試験の中から、望ましい育児のとらえ方をしているかどうかを判断する。日々の育児活動の中で直面する様々な問題点を、親としての確に解決できるかを判断する。				③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組み、発表・課題提出などが積極的にできるかどうか判断する。				評価方法\観点	①	②	③		学習状況観察	◎	◎	◎	自己評価の実施	課題レポート	◎	◎	◎	課題ごとに提出	ノート提出	◎	○	○	学期に1回提出	ペーパーテスト	◎	◎	—	中間・期末試験
①知識・技能	子どもの発達や育児活動において必要な知識を吸収し、実生活において問題を解決できる力が得られているかを判断する。																																												
②思考・判断・表現	実技やワークシート、定期試験の中から、望ましい育児のとらえ方をしているかどうかを判断する。日々の育児活動の中で直面する様々な問題点を、親としての確に解決できるかを判断する。																																												
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組み、発表・課題提出などが積極的にできるかどうか判断する。																																												
評価方法\観点	①	②	③																																										
学習状況観察	◎	◎	◎	自己評価の実施																																									
課題レポート	◎	◎	◎	課題ごとに提出																																									
ノート提出	◎	○	○	学期に1回提出																																									
ペーパーテスト	◎	◎	—	中間・期末試験																																									
履 修 上 の 注 意	○ 授業では毎時間板書内容をノートまたはプリントに書き写し復習しましょう。 ○ 実験や実習後は速やかに記録用紙に記入し、提出してください。																																												

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
第1学期	4	保育を学ぶにあたって 第1章 子どもの発達の特徴 1. 生涯発達における乳幼児期の重要性 1. 乳幼児期の大切さ 2. 発達と環境 1. 発達を支える環境 2. 発達と環境 3. 多様な発達の中で育つ子ども 3. 発達観・児童観とは 1. 保育にみる発達観と児童観 2. 子どもが自ら育つ「発達」へ 3. 変わってきた「子ども」への関心	1 1 1	・保育を学ぶ意味について理解する。 ・生涯発達のためには乳幼児期が大切であることを理解する。 ・子どもはさまざまな環境の影響を受けながら発達していくことを理解し、様々な事象について考察する。 ・子どもが養育される権利を持ち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を理解する。 ・日本の児童観の変遷と社会環境や法制度のしくみについて理解する。	ワークシート (自己評価、学習状況観察、提出物、定期考査)
	5	第2章 子どもの発達過程 1. 身体発育と運動機能の発達 1. 発育と発達と成長 2. 乳幼児期のからだの発育 1. 乳幼児期の発育の特徴 2. 乳幼児期の生理的特徴 3. 乳幼児期の発達の特徴 1. 乳幼児期の発達 2. 乳幼児期の感覚・運動機能の発達	1 2 2	・子どもの発達には一定の順序と方向性、個人差があることを理解する。 ・乳幼児の発育の目安や評価法、生理的特徴を理解する。 ・乳幼児期の発達と環境の関係を理解する。人は生まれながらにして「社会的な存在」であることを認識する。	
	6	4. 人間関係の発達 1. 人との絆(愛着関係)の形成 2. 自立と対人関係	2	・愛着の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。	
		(1学期中間試験)	1		
		5. 心の発達 1. 情緒の発達 2. 認知機能の発達	2	・子どもと大人ではもののとらえ方に違いがあることを知る。 ・言葉の発達の順序について理解する。	
	7	第3章 子どもの生活 1. 子どもの健康と生活 1. 大人の役割は 2. 養護の具体的な方法 3. 基本的生活習慣の習得 4. 社会的生活習慣の習得	6	・発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・基本的生活習慣と社会的生活習慣の違いを理解する。 ・発達の段階で必要な大人の支援を理解し、それぞれの場面で必要な事柄を考察し表現する。	
		(1学期末試験)	1		
第2学期	9	2. 子どもの食事 1. 栄養と食生活 2. 乳児の食事 3. 離乳	10	・子どもの栄養と食生活の特徴を理解する。 ・食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割を持つことを認識する。	ワークシート (自己評価、学習状況観察、提出物、定期考査)
	10	4. 幼児の食事 5. 幼児の食事の実態と問題点 3. 子どもの衣服 1. 衣服の役割と条件 2. 衣服の選択 3. 衣服の調節 4. おむつ 5. 寝かせ方	8	・幼児食やおやつについて理解し、実習を通して子どもをイメージする。 ・乳幼児に適した被服の素材や形を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・適切な寝具やおむつの選択、使い方などを理解する。	
		(2学期中間試験)	1		

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学習活動（評価方法）
第2学期	11	4. 子どもの遊びと生活 1. 子どもの遊び 2. 児童文化財 3. 子どもに身近な児童文化財 4. 子どもの生活と住環境	8	・子どもにとって「遊び」は、豊かな心や多くの能力を獲得するために大切であることを理解する。 ・子どもの情操、感性、知的探究心などを豊かにするために適切な児童文化財を選択できるようにする。	
		5. 子どもの健康管理 1. 子どもの健康を守る 2. 子どもの病気 3. 病気の子どもの看護 4. 病気の予防	8	・子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法や適切な対処法について理解する。	
		(2学期末試験)	1		
第3学期	1	5. 現代の子どもの健康 6. 住まいと子どもの危険 7. 応急処置と救急用品 8. 心の健康		・住まいに潜む危険について理解する。	ワークシート (自己評価、学習状況観察、提出物、定期考査)
		第4章 子どもの保育 1. 保育の意義と目的 1. 保育とは何か 2. 保育の目的と目標	2	・人間形成の基礎を培う乳幼児期の大切さと保育の意義について考える。 ・保育が一方的な行為ではなく、保育者と子どもの相互成長の視点に気づく。	
		2. 保育の方法 1. 子どもの健やかな育ちを支える 2. 発達過程に応じた保育	4	・発達過程の特徴と段階に応じた保育の方法を理解する。	
		3. 保育の環境 1. 子どもが育つ環境の変化 2. さまざまな保育の場	2	・家庭保育と集団保育のそれぞれの意義を学び、課題について考える。	
		第5章 子どもの福祉と子育て支援 1. 子どもの福祉 1. 児童福祉の理念と関係法規・制度 2. 福祉にかかわる施設	2	・児童福祉法や児童福祉施設の概要について理解する。	
		2. 子育て支援 1. これからの子どもの福祉	1	・男女共同参画社会におけるこれからの福祉について考える。	
		(学年末試験)	1		